

平成 30 年度 事業報告書

(第 27 期)

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 30 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 30 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 2,220 万円、予算額 2,266 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 30 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 27 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案をまとめ、12 月 3 日の理事会にて受贈者が決定した。贈呈式は平成 31 年 3 月 11 日にホソカワミクロン本社にて開催され、27 名の受贈者を含め 52 名の出席があった。

1) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度も、昨年度から開始した、国内に限定しない候補者の推薦を得るために、KONA 誌の国際的な編集委員会体制を活用して広く世界から募集した。その結果、国内外から 6 件（5 名）の推薦があり、選考委員会で承認された 10 名（日本人 4 名、アジア・米国・欧州ブロックからそれぞれ 2 名）の KONA 賞審査委員による採点結果を基にして選考委員会で選考され、理事会にて承認を得た。その結果本年度は、英国リーズ大学 Prof. Mojtaba Ghadiri に、“Contributions to the particle technology on linking the bulk powder behavior, particle characterization and modelling with hosting the young scholars” の業績に対して KONA 賞の授与が決定された。授賞式は、令和元年 10 月に大阪で開催される第 53 回粉体工学に関する講演討論会で行われる予定になっている。

2) 研究助成（助成金配分額 1,400 万円）

本年度は昨年度(193 件)に比べてほぼ 3 分の 2 の 132 件の応募があり、その中から 19 件（昨年度は 21 件）の研究に対して助成することが決定された。本年度の応募件数が昨年度に比べて大幅に減少したのは、今回は過去の非採択者への応募のリマインダをしなかったことによるものと考えられるが、本年度は審査委員の増員なしで進めることができた。また研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度の採択率は昨年の 10.9%から 14.4%に向上した。なお、採択案件の決定後、その対象者の 1 名が個人的な事情により本助成金の受領を辞退されたため、最終的には研究助成の実施件数は 18 件となった。

3) 研究者育成のための援助（援助金配分額 300 万円）

本年度は 25 件の応募があり、これらの中から選考委員会で 10 件が推薦された。第 2 回理

事会にて本案が承認され採択者が決定された。本年度は採択者の中の外国人留学生は 2 名であった。

4) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 100 万円）

シンポジウム開催援助については、粉体工学会内藤牧男会長から申請があった、令和元年 11 月 20～21 日に Shanghai Institute of Ceramics(上海セラミックス研究所)にて開催が予定されている同学会主催の” International Symposium on Powder Processing Technology for Advanced Ceramics(先進セラミックスの粉体プロセスに関する国際シンポジウム)” が対象として採択された。

II. 特定事業（実施額 0 万円、積立額 150 万円）

1) 第 3 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催準備

当財団では、活動のグローバルな展開の促進を目指して、新たに、アジアでの国際化展開のための特定事業を設定し、平成 30 年度から 2 年間の積み立てを行い、令和元年度に、中国上海にて第 3 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウムを開催することを目指して、粉体工学会、ならびに会場となる上海セラミックス研究所と連携しながら、シンポジウムの立案、講師への出講依頼、プログラムの作成、会場予約等の準備を進めると共に、開催費用として、平成 30 年度には 150 万円の積み立てを行った。令和元年度にさらに 150 万円を積み立て、合計 300 万円で本特定事業を実施する予定となっている。

III. 財団自主事業（実施額 1,175 万円、予算額 1,284 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 466 万円、予算額 502 万円）

第 52 回粉体工学に関する講演討論会のプログラムと講演要旨、申込書を添付した案内状を 6 月から配布すると共に、当財団ならびにホソカワミクロンのホームページに掲載して集客を図った。そして、同講演討論会を 9 月 3 日(月)に東京ガーデンパレスにて、「粉体材料の合成および利用を支える粉体技術」をテーマとして開催した。定員 150 名に対して、161 名の参加があった。本会の開催内容について、当財団のホームページに報告(9/6)すると共に、KONA 誌 No. 36 (2019) に報告記事を掲載した。なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長 齋藤文良東北大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA Powder and Particle Journal」の発行（実施額 709 万円、予算額 782 万円）

本年度は、合計 18 件の論文（アジア 7 件、欧州 5 件、米国 5 件、自由投稿 1 件）を掲載

した No. 36 (2019) (297 頁) を 1,100 部印刷し、平成 31 年 1 月 10 日付けで出版して、国内外の読者、大学、図書館等の関係者への発送を行うと共に、同日財団ホームページに出版の案内を行い、Web ジャーナルも掲載した。

平成 31 年 1 月 31 日にアジアブロック編集委員会を開催し、次号 No. 37(2020)以降の出版に向けて、新たに 22 本の推薦論文の提案があり、昨年度に未掲載の推薦論文を含めて、順次執筆可否の問合せを進めた。なお、本誌は、日本科学技術振興機構 (JST) によって運営されているオンライン学術誌データベース J-STAGE に 2013 年から掲載され、さらにその支援を受けたオンライン投稿査読システムの本運用も 2017 年から開始している。

IV. 年報の発行 (実施額 73 万円、予算額 105 万円)

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 25(2017)は、平成 29 年度の活動状況報告を中心としたもので、平成 27 年度研究助成成果報告 22 件と平成 28 年度研究者育成のための援助成果報告 10 件を掲載し、平成 30 年 5 月に発行した。なお、当財団の年報は平成 21 年度以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。一昨年度に科学技術振興機構からの支援を受けて当財団の年報が J-STAGE に登載されることになり、平成 29 年 2 月に初めて年報 No. 23(2015)が同システムに掲載され、昨年度は No. 24(2016)を公開したが、本年度も年報 No. 25(2017)の掲載のみで、予定していたバックナンバーの掲載には至らなかった。

以上